

2022年度 日本工学院専門学校											
放送芸術科											
映像リテラシーD 2											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	平岩モトイ			実務経験	有	職種	広告代理店クリエイティブ・ディレクター				
担当教員紹介											
映画配給会社で宣伝業務に従事していた											
授業概要											
誰もがスマホを持ち歩く世の中となり、人類は歴史上ないほど映像を活用するようになっていいる。誰もが気軽に映像を撮影してネットに上げられる反面、同じような映像ばかりが溢れているのが現状でもある。世界初の映画が誕生して120年余り。この間、映像は「どうしたら伝わるか」「どうしたら感動させられるか」を試行錯誤してきた。先人たちが見出した、そうした「映像話法」を学ぶことで、”映像のプロ”としてふさわしい発想力、表現力を身につけることを期待する。											
到達目標											
映像クリエイティブには、いくつかの定理、法則、パターンがある。毎回テーマごとに映像制作のポイントを理解することで、将来的に映像を自分で考えて作り出せるようになる。											
授業方法											
テーマ別に、見本となるアーカイブ映像を視聴しながら「サンプル視聴」→「ポイントの理解」、さらに自宅学習を通して「定着」を図る。											
成績評価方法											
次の合計点で評価する。 1) 毎回の授業で出される課題を提出してもらう。40％ 2) 期末試験の結果。60%											
履修上の注意											
リモート授業であるが、遅刻・途中退出をしないこと。（正当な理由がある場合は、その旨、申し出ること） 授業中に内部資料を扱うことがあるため、授業内容をSNSに書き込むことを禁ずる。 授業時数の4分の3以上出席しない者は、定期試験を受けることができない。											
教科書教材											
特になし。毎回の授業に向けて、前日にレジュメを掲示板にて掲出するので、事前に目を通して欲しい。											
回数	授業計画										
第1回	3B。映像における美人の力とは。										
第2回	3B。映像における赤ちゃんの力とは。										
第3回	3B。映像における動物の力とは。										
第4回	子役。期間限定の役者の光と影。										
第5回	外タレ。どうして外国人タレントが持て囃されるのか。										

2022年度 日本工学院専門学校	
放送芸術科	
映像リテラシーD 2	
第6回	素人。素人にしかできない表現とは。
第7回	衣装。映像における衣装の役割とは。
第8回	制服。制服のバリエーションと意味。
第9回	メイク。メイクの効果。
第10回	ブランディング。企業価値を創出するブランド戦略。
第11回	恐怖心。お化け屋敷からホラー映画まで。
第12回	射幸心。なぜ宝くじを買うのか。
第13回	比較、実証。目で見てわかることの意味。
第14回	ドキュメンタリー。リアルとフェイクの境目を探る。
第15回	後期期末試験対策。1年間の総括。